

子宮頸がんワクチンについて(以下、2価、4価、9価のワクチンのいずれかを選択)

ワクチン名	9価ワクチン(シルガード)
対応するウイルスの型	HPV6・11・16・18・31・33・45・52・58型
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 一般的なスケジュール </div> <p>9価ワクチンで接種を開始する方は決められた間隔をあけて、合計2回または3回接種します。1回目または2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。</p>	<div style="text-align: center;"> <p>0か月 1回目</p> <p>合計2回</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>0か月 1回目</p> <p>2か月 ※2</p> <p>6か月 ※3</p> <p>合計3回</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合(2回接種が可能)</p> <p>1回目の接種を15歳になってから受ける場合</p> </div> <p style="font-size: small;">いずれの場合も、1年以内に接種を終えることが望ましい ※1 →1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。 ※2・3→2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。</p>

ワクチン名	4価ワクチン(ガーダシル)	2価ワクチン(サーバリックス)
対応するウイルスの型	HPV6・11・16・18	HPV16・18
接種回数(投与方法)	3回(筋肉内注射)	3回(筋肉内注射)
接種間隔	2回目:1回目接種から2か月後 3回目:初回接種から6か月後 <上記の接種間隔で接種できない場合> 2回目:1回目の接種から1か月以上の間隔を置いて接種 3回目:2回目の接種から3か月以上の間隔を置いて接種	2回目:1回目接種から1か月後 3回目:初回接種から6か月後

※2価ワクチンを選択する場合、医療機関によりワクチンの供給状況が異なるため、医療機関へお問い合わせください。

【主な副反応】

疼痛、発赤、腫脹、疲労、筋肉痛、頭痛などがあります。ワクチン接種後に血管迷走神経反射による失神が現れるおそれがあるので、接種後30分程度は様子を見ます。

【注意事項】

- *高校1年生で接種を開始する方は、期限内に3回接種を完了するためには、その年の9月までに接種を開始することが必要です。
- *平成9年4月2日生まれ～平成20年4月1日生まれの方の接種期限(助成対象期限)は令和7年3月31日となりますので、令和6年9月までに接種を開始することが必要です。
- *ワクチンを接種しても、完全に感染を防ぐことはできません。
- *接種前に感染している場合は、接種を受けてもウイルスを排除したり、病気の進行を遅らせたりすることはできません。
- *20歳を過ぎたら定期的に「子宮がん検診」を受けることが重要です。

◎予防接種救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要となり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。接種後、一過性で治まらない副反応など心配なことがありましたら、接種医もしくは、保健センターまでご相談ください。